# レクイエムの歴史

## 死と音楽との対話

井上太郎

平凡社

平凡社選書 185

**レクィエムの歴史**（れきし）
死と音楽との対話

1999年1月19日　初版第1刷発行

著者……井上太郎
発行者……下中直人
発行所……株式会社　平凡社
東京都目黒区碑文谷5-16-19
〒152-8601　振替00180-0-29639
電話……(03)5721-1253[編集]
(03)5721-1234[営業]

基本デザイン……中垣信夫＋吉野愛
印刷……図書印刷株式会社
製本……株式会社石津製本所

© Taro Inoue 1999 Printed in Japan
ISBN4-582-84185-6
乱丁・落丁本のお取替は直接読者サービス係まで
お送りください(送料は小社で負担します)。

NDC 分類番号765.3　四六判(19.4cm)　総ページ384

Heibonsha Sensho

# レクイエムの歴史

江苏工业学院图书馆
藏书章

平凡社

# レクイエムの歴史

## 死と音楽との対話

井上太郎

平凡社選書
185

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

# 目次

はじめに……11

第一章……グレゴリオ聖歌とレクィエム……15
レクィエムの呼称の由来／グレゴリオ聖歌の特色／「死者のためのミサ」で唱われるグレゴリオ聖歌

第二章……「死を想え（メメント・モリ）」の世紀に……45
死者の記念祝日／「個」の自覚の誕生／「死を想え（メメント・モリ）」／「死の舞踏」／ギヨーム・ド・マショー

第三章……ルネサンスとレクィエム……59
《新たに薔薇の花が》／「死にゆくデュファイを憐れみ給え」／現存最古のレクィエム／オケゲムへの挽歌／ジョスカン・デプレ／ピエール・ド・ラ・リュー／ブリュ

メルの「怒りの日」／宗教改革とトリエント公会議／イギリスにおける宗教改革／タリスとバード／モラーレス／パレストリーナ／ラッスス／ビクトリア

第四章……バロック的レクィエムの諸相（一）……87

旧教か新教か／コーロワのレクィエム／十七世紀初頭のレクィエム／カルドーゾとロボ／ジェズアルドにおける「死の表現」／モンテヴェルディ／シュッツの《音楽による葬儀》／カヴァッリの革新／ボヘミアのレクィエム／セレロールスの《ああ、悲しや！》／皇帝フェルディナント三世とフローベルガー／レクィエムを書いた皇帝レーオポルト一世

第五章……バロック的レクィエムの諸相（二）……115

弱体化する教皇の権威／シャルパンティエ／「深き淵より」／王妃の死を悼む寓意的モテット／カンプラとジル／ビーバー／J・S・バッハの死生観／《追悼頌歌》／葬儀のモテットとバッハの収入／バーセルの《メアリ女王の葬儀の音楽》／ヘンデルの《葬送アンセム》／ゼレンカ／ハッセ

第六章……劇的レクィエムの出現……143

クリスティアーン・バッハの《怒りの日》／ゴセックの「恐怖の表現」／十八世紀後

半のザルツブルク／ミヒャエル・ハイドンのレクィエム／フックスとウィーンの教会音楽／ヨーゼフ二世の改革／モーツァルトの「レクィエム伝説」／曲の経緯の謎／精神のドラマを描いたモーツァルト／モーツァルト追悼の音楽／モーツァルトの友人が書いたレクィエム／パイジエッロとチマローザ／《フリードリヒ大王の死を悼むカンタータ》／グスターヴ三世のオペラ的葬儀

第七章……革命と葬送の構図……175

ベートーヴェンの《皇帝ヨーゼフ二世の死を悼むカンタータ》／ベートーヴェンにおける「英雄の死」／レイハの「抵抗のレクィエム」／ノイコムのレクィエム／ケルビーニによるルイ十六世追悼のレクィエム／ケルビーニの男声合唱によるレクィエム／マイヤー、ドニゼッティ、ボンテンポのレクィエム／ベルリオーズの幻想世界／巨大レクィエムの構図／《葬送と勝利の大交響曲》／ロッシーニのための合作レクィエム／ヴェルディと愛国詩人マンゾーニ／ヴェルディのレクィエムの性格

第八章……ロマン主義における死の位相……205

宗教的イメージの音楽／《ミニョンのためのレクィエム》／シューマンの最後の大作／ブルックナーの若書き／僧衣をまとったリスト／ズッペとコルネーリウス／ブラームスの《ドイツ・レクィエム》のテクスト／テクストと音楽との関わり

／音楽の構造／ドヴォルジャークとブラームスの死生観の違い／ドヴォルジャークのレクィエム／スタンフォード

第九章……十九世紀末フランスのレクィエム……237

グノー／知られざる巨匠グヴィ／グヴィのレクィエム／ブリュノー／ショロンとニデルメイエールの古典宗教音楽学校／「国民音楽協会」とサン＝サーンス／サン＝サーンスのレクィエム／フォーレのレクィエムの独自性／テクストの自由な改変／作曲の経緯／レクィエムに表現されたフォーレの世界

第十章……多様化する「死への想念」……259

ニーチェの『アンチクリスト』／マーラーの「永劫回帰」／エルガーの《ゲロンティアスの夢》／リヒャルト・シュトラウスにおける「変容」と「転生」／ベルクのヴァイオリン・コンチェルト

第十一章……二十世紀のレクィエム（一）……269

二つの大戦とレクィエム／レーガーの未完の大作と《ヘッペルによるレクィエム》／ヴァイルの《ベルリン・レクィエム》／アイスラーの《レーニン・レクィエム》／ピツェッティの古様式によるレクィエム／イギリスの作曲家による作品／フォ

ーレの伝統は消えず／スウェーデンの作曲家のレクィエム／ヴィツパーレクの《チェコ・レクィエム》

第十二章……二十世紀のレクィエム（二）……285

ヒンデミットの《我らが愛する人々のためのレクィエム》／オネゲルの《典礼風シンフォニー》／デュリュフレのレクィエム／反戦主義者ブリトゥンの《シンフォニア・ダ・レクィエム》／ブリトゥンの《戦争レクィエム》とオーウェンの戦争詩／《戦争レクィエム》の構成／ショスタコーヴィチのシンフォニー第十四番《死の歌》／カバレーフスキイのレクィエム／ストラヴィーンスキイの《レクィエム・カンティクルス》／リゲティのレクィエム／ツィンマーマンの《ある若き詩人のためのレクィエム》

第十三章……二十世紀のレクィエム（三）……309

タヴナーの三つのレクィエム／ブソッティの《ラーラ・レクィエム》／シニートケのレクィエム／ペルトの《死亡者名簿》とトゥビンの《死せる兵士のためのレクィエム》／ペンデレツキの《ポーランド・レクィエム》／ロイド・ウェッバーのレクィエム／変貌するレクィエム／ジャズ・バンドを使ったレクィエム／《マルドロール・レクィエム》と《連歌レクィエム》／ヘンツェのレクィエム／《和解のレクィエム》

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第十四章……日本人とレクィエム……333
「鎮魂」という言葉について／武満徹の《弦楽のためのレクィエム》／三木稔の《レクィエム》／林　光の《原爆小景》／早川正昭の《レクィエム・シャーンティ》／三善晃の三部作《レクィエム》《詩篇》《響紋》／細川俊夫の《ヒロシマ・レクィエム》／柴田南雄の《人間と死》／結語――「メビウスの帯」
あとがき……354
主要参考文献……357
CD一覧……373
索引……380

# はじめに

人は生まれた瞬間から死へと向かって歩み始める。ひとりとして例外はない。それは誰にも否定できない真実である。それゆえに人は死の中に人生の最も深い意味を探ろうとする。あらゆる宗教の原点は「死の意味するもの」にあるといっても間違いないであろう。

死の歴史について優れた研究を残したフランスの歴史家フィリップ・アリエス（一九一四―八四）は一九七七年に刊行された大著『死を前にした人間』（成瀬駒男訳　みすず書房　一九九〇）の中で死に対する人々の考えが、いかに時代と共に変わっていったかを多くの実例によって示している。ドイツ語圏の例が少ないうらみはあるにしても、ヨーロッパの人々が葬送について、キリスト教のほかに古来の土俗信仰をさまざまな形で取り入れていることが繰り返し説かれている。

死は生の対極にあるものとして忌み嫌われるが、死を至福のものとする見方も一方にあることを見落とすわけにはいかない。

ゲーテはこう言っている。

「何もかも充たされる瞬間があるのだよ。ぼくらが憧れ、夢み、願い、怖れたことのすべてが充

たされる瞬間が。わが娘よ、それこそ死なのだ」（『プロメテウス』高橋義人訳）

またモーツァルトは病む父にこう書き送っている。

「死というものは（つきつめて考えれば）僕たちの生にとって真の最終目標なのですから、僕は数年このかた、この、人間にとって真実で最上の友と非常に親しくなっています。ですから、死の姿は恐ろしいものであるどころか、むしろ心を安らかにし、慰めてくれるものなのです！　そして神様が僕に、死というものが、われわれの真の幸せを開く鍵であると知る機会（おわかりですね）を賜わったことに感謝しております。僕は毎晩ベッドに横たわる時に――若い身なのに――明日はもう生きていないのではないかと考えるのです。しかし誰も僕のことを、不機嫌そうだとか、陰気だとは言わないでしょう」（一七八七年四月四日付の手紙）

「生」は誕生から死に至る軌跡である。つまり「生」は有限な時間の中に存在する。ところが「死」は無限への入口なのだ。残された人々はせめて死者の追憶を生命のない物体に刻みこんで残そうとする。それは追憶を無限に続くと信じたいからである。

ウィーンのカプツィーナー教会の地下にはハプスブルク家の墓所があり、そこには歴代の皇帝を始めとするハプスブルク家の人々の何百年にもわたる柩が置かれている。それらのほとんどは生前の権力を死後にも誇るかのように豪華に作られているのだが、柩にほどこされた彫刻には骸骨が王冠を戴いているものまである。これはグロテスクというよりいささか滑稽でさえある。しかしこれを作らせたのも「死の意味するもの」の表現にほかなるまい。

フランツ一世（一七〇八―六五）とマリア・テレージア（一七一七―八〇）の柩はロココ様式の彫刻をほどこした巨大で豪華極まるものだが、その息子のヨーゼフ二世（一七四一―九〇）の柩は、彼の徹底した合理主義を反映して、一切の装飾を持たない簡素な金属の箱にすぎず、際立った対照を見せている。私はここを訪れるたびに、死生観の見本市さながらの様相に、さまざまな思いをかきたてられる。

人は無限の中に消えていった魂に向かって呼びかけ、谺（こだま）に耳を澄ます。それが音楽の形をとる中で、レクィエムは際立った存在である。

レクィエムは元来カトリックの典礼音楽だが、それが次第に典礼の域を越え、大きく変わってゆく。現代においてはカトリックと全く無縁なレクィエムが作られており、むしろその方が主流である。そしてそこには、あらゆる宗教を超越した地球人としての祈りがこめられているのである。しかしレクィエムという名称は依然として使われている。「レクィエム」という言葉の持つ響きは宗教を超えて人々の心を捉えるものがあるからであろう。

レクィエムを書く作曲家は曲を書きながら何度も死と対話するに違いない。そうすることによってその時代の「死の意味するもの」が自ずと音楽の形をとる。それはまた無限への呼びかけなのである。作曲家は死に満たされた無限の闇に向かって呼びかける。谺はどのように返ってきたであろうか。私はそれを追ってみたい。

# 第一章　グレゴリオ聖歌とレクィエム

## レクィエムの呼称の由来

キリスト教はパレスティナにおけるユダヤ教の一派を起源とする。そして次第に西方へと広がって行き、多くの人々を教化していった。その過程における異教への対応は、後世になってからの居丈高な排除の姿勢とは違い、遥かに柔軟であった。それは古来の慣習との結びつきが布教の上で大切なものとの認識が古代の教父にはあったからである。例えば『ローマ・ミサ典礼書』にある「死者のためのミサ」について「命日の三日目、七日目、三十日目におこなうことができる」という日取りは、キリスト教以前の伝統に基づくと考えられている。キリストの復活が三日目であり、七日目は旧約以来の重要な日付であって矛盾はないが、キリストの昇天は四十日目に当たるので、本来はそうあるべきなのに三十日目としたのは、古代ギリシアの喪の習慣に従ったためという（ユングマン『古代キリスト教典礼史』石井祥裕訳　平凡社　一九九七）。

古代キリスト教会の典礼音楽が、他の宗教のそれと大きく違うところは、楽器や踊りが使われず歌唱のみというところにある。後に「グレゴリオ聖歌」として大成された膨大な数の単旋律の聖歌



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com